

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年4月8日

事業所名:とねりこクラブ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		部屋の広さに合わせて人数が配置できている。	
	2	職員の配置数は適切である	3	1		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	3		段差や階段が多いため、改善の必要がある。段差があるため、手すりの検討
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4		必ず、その日のプログラムと目標と振り返りを行う。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			その日の「感想カード」を活かして、改善につなげている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4		第三者が入ることがないため、その機会を作る。外部評価を行う。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		福岡市主催の研修に参加したり所内でも研修を実施しています。事業所内、外部の研修を受けている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4		保護者と1対1で話し合い、細かく作成している。保護者同伴で来所していただいているので、細かめに保護者と話す機会を作っているため、その度ニーズを拾い上げています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		Vineland- II など。バイナンドを実施しています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		子どもの個性・特性に合わせて作成。「今、子ども立ちに必要なスキルは何か」を常に話し合いの中で考えているので、毎年違うプログラムになっています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4		その日によってプログラムを決めている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4		子どもの様子から、職員間で話し合い決めている。SSTと自由遊びの時間で集団活動と個別活動を実施しています。クラスの状況に応じた内容を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		必ず行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		振り返り次に生かす。必ず振り返りを行い、改善点、注意すべきポイント、気になる子をスタッフ全員で把握できるようにしています。毎回振り返りし、次回に活用している。	
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		子どもの様子を細かく記録		
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4		月ごとに話し合う。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4				

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			必ず児童発達支援管理責任者と管理者が参加しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	1	3	教育委員会のホームページで行事の確認、学校主催のケース会議には必ず参加するようにしています。	学校との情報共有は常に行っていない。今後、個人情報保護法を踏まえて、学校とも情報共有を検討する。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	3		医療的ケアが必要なお子さんが在籍していません。現在在籍者無し。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	2		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	3		今後検討していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	3		今後検討していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	2	遠足や公園で交流することがたまにある。夕方、公園で地域のお子さんとは遊ぶ機会を作っています。	今後検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		4		スケジュールが合わず、15:00-などお子さんを預かる時間帯に実施されているので、参加できない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		その日の様子を保護者に細かく伝えている。毎回保護者勉強会に参加していただき、最近の様子を話し合ってもらっている。個別面談を3か月に一回実施しています。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4		参加日にはペアトレを行っている。保護者同伴で参加していただき、30-40分ペアトレを実施しています。声の掛け方、ほめ方などの練習もしています。保護者勉強会を毎回実施している。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		契約時に管理者が説明する機会を作っています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		家庭でできそうなことを助言。保護者勉強会、個別面談と毎回感想カードを書いていただいているので、それに対しても必ずアドバイスさせていただいています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	1	保護者会を開催はしていないが、保護者同士の支援は行っている。保護者主体ではありませんが、毎回の保護者勉強会で交流できるよう工夫しています。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4		苦情があった際にはすぐに職員間で情報共有する。個別に面談する機会を作り、対応しています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		とねりこだよりの配布 毎月「とねりこだより」をお渡ししてお子さんたちの様子やスケジュールをお伝えしています。 とねりこだより、のびのびだよりを発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	4			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		個別に話す時間を作る。 個別にメールでスケジュールを確認したり、メモを渡すなどしてリマインドしています。 口頭+プリントなど様々な手段を組み合わせる。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4			今後検討する。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4			
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	1		実際避難訓練を行う。 訓練を実施予定。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		研修に参加している。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	1		身体拘束が必要なお子さんが在籍していない。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1	アレルギーの有無は入所時に確認しています。 保護者からの聞き取りは必ず行っている。	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	1	3	事業所ならではの事例を元で作成していく。 口頭に留まっているため、システム化する	